

■□ 開会挨拶

若林 靖永（くらしと協同の研究所 理事長）



ただいまご紹介いただきました、くらしと協同の研究所の理事長を務めております佛教大学の若林です。

本日はたくさんみなさまが会場にお越しになり、またオンラインでも多くの方にご参加いただいていること、とてもうれしく思います。ありがとうございます。

さて、開会にあたって何をしゃべろうかなと思うのですが、ご覧になってない方には、ちょっとピンとこない話になってしまう点がございますけれども、「あまちゃん」以来の社会的な話題を提供しているNHK朝の連続テレビ小説「虎に翼」をとりあげたいと思います。ネットでは毎日考察をしている方々がたくさんいて、毎週毎週、毎日毎日、さまざまな論点があふこんできて、考えさせられるという、なかなかとんでもないお話です。今週も、老いて退職する方が、これまで理想に向けて戦ってきたけれども、現実に流されて、自分はどこまでできたんだろうか、なにもできていない、結局のところ「雨垂れの一滴」に過ぎず、岩をも穿つとはいかない、だから、後進、若い人たちにお願いするよ、というあいさつをします。それについて主人公が、私たちがやっていることは無駄だという意味なのですか、と強く反発して憤りを顕わにします。なぜ主人公が反発したのかというところをどう受け止めるかをめぐって、さまざまな考察が盛り上がっていてもいます。

本当に協同組合も生協もさまざまな理想に向けて取り組んでいますが、結局のところ、いったい何ができているのかと思うこ

ともあるでしょう。ウクライナ、そしてガザで起こっていることで毎日心を痛めるわけですが、こういう現実に無力感を思わざるをえません。私は経営学者、マーケティング研究者としては、現実にとっと、現実的であるっていうことも重視してきました。ウクライナのことについて言えば、ロシアにはロシアの事情があるとか、ガザについてもイスラエルにはイスラエルの事情があるというように、わかったように理解するみたいなこともできるわけです。しかし、このような現実を認めてはいけない、受け入れてはいけないと、あらためて思います。このような理想との関わりで、どうがんばっていくのかということをめぐって、ドラマ「虎に翼」を見ながらも、いろいろと考えさせられてしまうのです。

今回の総会記念シンポジウムのテーマは、生活協同組合における人づくり、若者に協同の価値をどう伝え、魅力ある職場をどうつくるかとあります。最近ではZ世代論ということで、マーケティング研究もありますが、経営学者の方々を中心に、Z世代の学生が大学でどんな意識と行動をとっているか、その人が卒業して社会人になって、会社や上司先輩といかにミスマッチを起こしているかということについて調査分析しています。日本だけでなく世界で、この新世代とどう向き合うか、正直、困っている状況が生まれています。でもそういう状況のなかで、いかにともに未来に向けて、先ほどの理想と現実の話ですけれども、理想に向けて助け合って頑張っていけるかど

うか、そういう協同組合、そういう職場というのをつくっていけるかどうか、が問われていると思います。やっぱり若者が参加しない、若者がやっぱり興味を持たない、若者が楽しいと思わないというような組織や運動に未来はないわけですから。こうしたら大丈夫、なんていう簡単な割り切れるソリューションがあるわけではありません。しっかりこの問題を受け止めて、こういう状況があり、こういう問題があるということを経験したうえで、どうやっていけるかと、いかにともに助け合って、未来に向けて頑張れるっていう状況をつくっていけるか、すすめていくということだろうかと思います。ということで、この2日間、総会記念シンポジウムで大いに学び、語り合ってほしいと思います。

最後に一言。くらしと協同の研究所は、昨年30周年を迎えました。昨年の9月には記念式典も開催し、30年間さまざまなカタチで、ご協力、ご貢献、ご参加いただいた生活協同組合、あるいは研究者の皆さんほかに、ご参加いただいて開催ができたこと、とてもうれしく思います。そして30年というタイミングでやらなかったら、40年目にできるかっていうのはさすがに難しいだろうということで、今日皆さんのテーブルの上に置かせていただいているとおり、『くらしと協同の研究所30年史』をまとめまして、お配りさせていただいています。『30年史』では、30年前どういう思いでくらしと協同の研究所が生まれ、30年間どんな探究を生活協同組合の皆さまとすすめてきたのか、について、過去のさまざまな記録や報告書をもとにまとめました。そしてこれを受けて、未来の生協づくり、地域づくり、生活づくりのために、ともに、どのようにがんばっていくのかということをお問うために、この『30年史』を

ぜひご覧いただいて、ご活用いただけたらと思います。

では、以上をもちまして、本日の総会記念シンポジウムの開会の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。